

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 17 日現在

機関番号：64303  
 研究種目：基盤研究(B)  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22405043  
 研究課題名（和文）アフロユーラシアにおける初期農耕・牧畜文化の比較研究  
 研究課題名（英文）Comparative study on early agriculture and pasturage in Afro-Eurasia  
 研究代表者  
 佐藤 洋一郎(SATO YO-ICHIRO)  
 総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター・教授  
 研究者番号：20145113

### 研究成果の概要（和文）：

専門分野を異にする研究者らが、それぞれのフィールドを交換しつつ、他者のフィールドに出かけてそれぞれの専門の観点から調査を行うとともに、相互に受けた刺激を交換し合い、将来の調査に役立たせる。調査項目としては、農耕や遊牧など、生業に関する事項とした。調査地は、アフロユーラシア地域とした。研究成果は、ウェブサイトなどで公表し、一般にも公開した。

### 研究成果の概要（英文）：

Concerned researchers with various fields of study have exchanged their fields and conducted field studies at other researchers' fields with the viewpoints of their own special field. Through this each researcher has mutually gained inspiration and interaction, which could be reflected for their future studies of their own. We focused on livelihood such as agriculture and pasturage, and selected Afro-Eurasia as research field for this research. The outcome of the study has been made public through a dedicated website.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2011 年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2012 年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
総計	13,900,000	4,170,000	18,070,000

### 研究分野：農学

科研費の分科・細目：境界農学・環境農学

キーワード：フィールドワーク・アフロユーラシア・生業・穀類・牧畜文化・農耕・遊牧

#### 1. 研究開始当初の背景

最近の学問は細分化が進み、分野間の連携・相互理解が絶望的に悪くなっている。人びとの暮らしや生業、その土地における

資源管理のあり方などを臨地で研究する臨地研究(フィールドワーク)に関しても、研究者たちは、自分の狭い専門領域にとじこもりがちであり、またフィールド自身も

固定され、視野を広めるのに大きな制約になってきた。

## 2. 研究の目的

本研究では、異分野(民族学・文化人類学、考古学、畜産学、農学、作物学、遺伝学)の専門家らの協働により、研究者らが日常の研究で訪問しているフィールドを相互訪問し、それぞれの手法による簡便な調査を行うとともに、隣地でその成果や感想を交換し、共有することで、相互の視点を広め、自己の研究の視点を相対化する。

## 3. 研究の方法

事前に訪問地と調査を希望する項目を相互にあげ、分野やフィールドがなるべく異なる研究者からなる調査チームを結成する。調査に先立って、調査地等に関して事前の打ち合わせをおこなう。調査は、必ずチーム全体で同行調査の体制をとることとする。調査時には、ホストとなる研究者によるオリエンテーションを行う。調査中は、時間を積極的にとって、調査の成果、印象、感想などを交換する機会を持つ。帰国後報告会を開催し、調査に出かけなかった研究者も参加して、成果を全体のものとする。

## 4. 研究成果

(1) 2010年度は初期農耕・遊牧・牧畜文化をキーワードに、個別分野におけるそれぞれの研究成果を統合し、各人のフィールド枠を超えて相互訪問し異分野との交流を促すことで、農耕という生業に通底する原理を考察するという目的に基づき2つの調査を実施した。その1つは「中央アジアにおける遊牧民と農耕民の軋轢と交易」というテーマで、遊牧世界における「中原」ともいうべき中央部の森林ステップ地帯において、城址ならびに墳墓等の遺跡の分布

から遊牧世界における農耕を空間的に位置づけながら、遊牧民と農耕の関係について歴史的に再考した。現地の遊牧民との生活、文化交流を通しての結果、遊牧世界にとって農耕民および農耕地は庇護すべき従属的な一部分ではあるが、社会全体空間全体での定着化が進行すると主従関係は容易に転換しうることを改めて明らかとなった。もう1つは「西アジアにおける遊牧民の発生と移動」というテーマで、ヨルダン溪谷からジャフル盆地一帯の住居社の状況と周辺環境から、農耕、牧畜と人々の生活について歴史的に再考した。その結果西アジアにおける農耕・家畜文化は、「家畜の習性」の成立と「家畜の形質」の成立、岩の狭間への閉じ込めや囲いの使用の必要な状況から遊牧の可能性への展開などを考えなくてはならず、自分たちのコントロールする群があったからこそ一定程度定住的に生活できるようになったのではないかと推測する。いずれにせよドメスティケーションの起源問題は、直接的な発掘や実証から遠くに立っている人類学者だけでなく他分野においても、まだまだ思考パズルとして十分に興味深いものと考えられる。いずれにせよ、中央アジアの遊牧文化は西アジアの「農牧複合」とはまったく異なっており、今後さらに両者を比較することにより初期農耕文化における地域性について新たな見解が得られよう。

(2) 2011年度は、乾燥・半乾燥地帯における遊牧を中心とする生業の調査を行った22年度の成果の上に立ち、モンsoonアジア地域における生業の調査を行った。調査地は、①パプアニューギニア地域(高地部および沿岸部)、②ラオスからタイにかけての稲作地帯の2か所とした。①パプアニューギニアでは、イモ(サトイモ)などを糖質の原料とし、また魚や豚をタンパク源とする生業のセットがみ

られる地域である。ここは、この地をフィールドとする細谷葵（地球研）がガイドとなり、砂漠地帯の研究者である縄田浩志と石山俊（地球研）、日本中世文化史の木村栄美（地球研）、乾燥地域の家畜研究の専門家である松井健（東大）が訪れた。②ラオス、タイでは、まずラオスにおける焼畑地を訪れた。調査地はルアンパバン近郊のナムガ村である。その後同国を陸路ビエンチャンまで南下し、途中の焼畑地を観察、メコン川を越えてタイに入り、バンコクまでを陸路南下した。このように本調査は、ラオスのルアンパバンからバンコクまでを陸路踏破するユニークなものであった。考古学者が2名参加していたので、途中、バンチェン遺跡およびピマイ遺跡を訪れた。バンコク手前ではプラチンブリ県の浮稲地帯を訪れ、その生業形態を調査した。案内役は佐藤洋一郎（地球研）および佐藤雅志（東北大）がガイドとなり、藤井純夫（金沢大）、榎林啓介（地球研）、小長谷由紀（民族学博物館）らが同行した。24年2月には全員が参加しての交換会を行い、視察の成果を交換するとともに24年度の方針について話し合った。

（3）平成24年度は、研究組織に加わった研究者の多くが経験したことのないアフリカにおける生業の調査をおこなった。調査地は、研究代表者が所属する総合地球環境学研究所で、東アフリカ・スーダンの調査歴の長い縄田浩志准教授らに依頼して、調査ルート決定と先方機関との交渉をお願いした。また、スーダンの南部にあるエチオピアの視察は、京都大学の重田正義教授に依頼し、現地に詳しい日本人研究者の紹介を受けた。

スーダンでは、首都ハルツームから300キロほどの2か所の地域で、アフリカ原産の雑穀農業や遊牧民の生業スタイルを観察したほか、現代の高収量品種導入後の農業も合わせて視察した。スーダンは乾燥地帯という認識が

一般的であるが、調査地は乾燥地帯への移行帯であり、調査時期には思いもかけず生産性が高い現代農業が展開していることを確認した。また、農民の伝統知である独特の灌漑法についても実見できた。また、スーダンはソルガムの原産地を含む地域であるが、ここではソルガムとその祖先種であるスーダングラスが共存するところも見ることができた。

エチオピアでは、南部において、この地域固有の穀類であるテフの農業を中心に視察を行った。テフは、小粒の種子を持つローカルな穀物で生産性も低い。その理由について、臨地調査に基づいてさまざまな検討を行うのが主目的であったが、その目的はおおむね果たせたと考えている。エチオピアはキリスト教徒が多い国で、イスラム教国であるスーダンとは農耕の方法や調理の方法にも大きな違いがみられた。

（4）すべての調査地点で、複数の研究者らの記録（画像を含む）を統合したウェブサイトを開設し、誰にでも見えるような形で成果の公開を行っている。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 佐藤洋一郎、水田の景観 2000 年の変遷史、日本史研究、査読有、607 巻、2013、1-15
- ② 佐藤洋一郎、地球環境問題にみる歴史学と自然科学の融合、アジア遊学、査読無、136 巻、2010、7-15
- ③ 梅崎昌裕、環境と人間の生活の通時的かわり-中国海南島の事例より（環境と歴史学-歴史研究の新地平）-（環境と歴史学へのアプローチ）、アジア遊学、査読有、136 巻、2010、26-35

〔学会発表〕（計15件）

- ① 佐藤洋一郎、The movement of crops in the Old World: The role of nomadic pastoralists、Symposium on "Dispersion of People, Crops, and Language:Hokkaido and Ryukyus"、2013. 2. 23-24、京都市

- ② 佐藤洋一郎、稲のルーツとコシヒカリより美味しい米、シンポジウム：穀物の生産から消費に至るまでの現状(招待講演)、2013. 2. 2、堺市
- ③ 佐藤洋一郎、米の未来を考古学に学ぶ、濱田青陵賞記念シンポジウム：食の未来を考古学に学ぶ(招待講演)、2012. 9. 30、岸和田市
- ④ 佐藤洋一郎、『米と魚』のエコ・ヒストリー、弥生人養成講座(招待講演)、2012. 7. 14、守山市
- ⑤ 佐藤洋一郎、DNA からみた古代米について-イネの歴史、高知県文化財団 埋蔵物文化財センター 研修(招待講演)、2012. 7. 13、高知市
- ⑥ 佐藤洋一郎、動態的風土論、パリ日本文化会館講演会(招待講演)、2012. 6. 9、パリ(フランス)
- ⑦ 佐藤洋一郎、風土の歴史性を考える、トゥールーズ第二大学講演会(招待講演)、2012. 6. 7、トゥールーズ(フランス)
- ⑧ 佐藤洋一郎、震災と稲作、人類学会館講演会(招待講演)、2012. 6. 6、パリ(フランス)
- ⑨ 佐藤洋一郎、日本人と稲・米-お米の遺伝的多様性はどうか変化したか、伝統食講座(招待講演)、2012. 4. 6、大阪市
- ⑩ 佐藤洋一郎、Rice diversity in Eurasia: Interdisciplinary approach, Rice and human migration in Asia, 2012. 2. 18、総合地球環境学研究所(京都市)
- ⑪ 佐藤洋一郎、よみがえるか 緑のシルクロード、鳥取大学乾燥地研究センター公開セミナー(招待講演)、2012. 12. 15、鳥取市
- ⑫ 佐藤洋一郎、環境が作る米と魚-食文化の多様性と環境・文化-、環境と文化・京都会議(招待講演)、2012. 12. 1、京都市
- ⑬ 佐藤洋一郎、アフロユーラシアにおける穀物と文明、クオリア AGORA(招待講演)、2012. 10. 25、京都市
- ⑭ 佐藤洋一郎、Rice: grown in China, Early Rice Cultivation & Its Weed Flora, 2011. 5. 31、北京大学(中国)
- ⑮ 西谷大、東アジア史における多様な自然利用-ブタとコメ、国土館大学東洋史学会、2010. 11. 13、国土館大学(東京都)

[図書](計7件)

- ① 佐藤洋一郎、弘文堂、イエローベルトの環境史、2013、6-19
- ② 佐藤洋一郎、昭和堂、食と農の未来 ユーラシア一万年の旅、2012、1-126
- ③ 佐藤洋一郎、岩波書店、食と農の環境思想、2012、155-179
- ④ 佐藤洋一郎、知ろう 食べよう 世界の米、岩波書店、2012、214

- ⑤ 佐藤洋一郎、福音館書店、食を考える、2012、191
- ⑥ 佐藤洋一郎、焼畑の環境学〜いま焼畑とは、2011、3-24
- ⑦ 佐藤洋一郎、昭和堂、生物多様性どう生かすか、2011、69-101

[その他]

ホームページ等

アフロユーラシアにおける初期農耕・牧畜文化の比較研究 <http://afro-eurasia.org/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 洋一郎 (SATO YO-ICHIRO)

総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター教授

研究者番号：20145113

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

長田 俊樹 (OSADA TOSHIKI)

総合地球環境学研究所・名誉教授

研究者番号：50260055

宇野 隆夫 (UNO TAKAO)

国際日本文化研究センター・教授

研究者番号：70115799

辻本 壽 (TSUJIMOTO HISASHI)

鳥取大学・乾燥地研究センター・教授

研究者番号：50183075

楨林 啓介 (MAKIBAYASHI KEISUKE)

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター・講師

研究者番号：50403621

小長谷 有紀 (KONAGAYA YUKI)

国立民族学博物館・教授

研究者番号：30188750

藤井 純夫 (FUJII SUMIO)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：90238527

細谷 葵 (HOSOYA AOI)

京都大学 GCOE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」・研究員

研究者番号：40455233

窪田 順平 (KUBOTA JUMPEI)

総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター・教授

研究者番号：90195503

梅崎 昌裕 (UMEZAKI MASAHIRO)

東京大学・医学(系)研究科(研究院)・准教授

研究者番号：30292725

本郷 一美 (HONGO HITOMI)

総合研究大学院大学・准教授

研究者番号：20303919

内山 純蔵 (UCHIYAMA JUNZO)

総合地球環境学研究所・客員准教授

研究者番号：40303200

西谷 大 (NISHITANI MASARU)

国立歴史民俗博物館・准教授

研究者番号：50218161

松井 健 (MATSUI TAKESHI)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：50109063

野林 厚志 (NOBAYASHI ATSUSHI)

国立民族学博物館・准教授

研究者番号：10290925

縄田 浩志 (NAWATA HIROSHI)

総合地球環境学研究所・研究部・准教授

研究者番号：30397848

石山 俊 (ISHIYAMA SHUN)

総合地球環境学研究所・研究部・プロジェクト研究員

研究者番号：10508865